



環境・安全報告書

Environmental And Safety Report



2014

CONTENTS

—目次—

1. 編集方針／報告対象範囲	1
2. トップメッセージ	2
3. 基本理念	3

Environmental

4. 環境マネジメントシステム	4
5. 2013年度環境目標及び活動実績	5
6. 環境配慮型製品の提供	6
7. 地球温暖化ガスの排出削減 地球温暖化ガスの排出削減推移、 個別のエネルギー使用の内訳	7
8. その他の環境負荷低減活動 省資源活動、廃棄物の排出削減	8
9. 環境教育	9
10. 環境監査	10
11. 環境リスクマネジメント	11
12. 環境コミュニケーション	12
13. 地域貢献・工場独自の活動	13

Safety

14. 安全衛生管理	15
15. 会社概要	17
16. 環境負荷マスマランス	18

編集方針

凌和電子(株)は、環境マネジメントシステム(EMS)を導入した2006年以来、当社の環境活動をステークホルダーの皆様にご紹介する目的で毎年環境報告書を発行して参りました。今回は9年目となり、環境目標に掲げた活動や安全衛生活動、また社会貢献活動についても併せて紹介しています。

又、内容は、中期計画に基づき当社の重点目標とした「環境配慮型製品の提供」及び「地球温暖化ガスの削減」等の活動と併せ、地域社会との共生として社会貢献活動や行政施策への関わりも含めてご紹介しております。

本報告書は、環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考としています。

報告対象範囲

●報告対象期間

2013年7月1日～2014年6月30日
(2013年度)

●報告対象

凌和電子株式会社

〔 本社、本社工場、元町工場、
山形工場、一関システムセンター 〕



当社は「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和が取れた企業活動を継続・推進していきます。

代表取締役社長 斉藤 仁司

環境・安全報告書2014年版を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当社は、1972年に創業し「計測」と「制御」を旗印に、40余年にわたり研究開発を続け、培ってきた技術と経験、そして独創的な個性を生かしたものづくりにてお客さまより厚い信頼と高い評価を頂いております。

「技術の研鑽に努めより良い技術を創造して、市場に提案し社会に奉仕する。」という当社の企業理念や社是である「創造と奉仕の精神」は、今日のCSR活動に相通ずるものがあり、創業以来現在も息づいております。

環境保全分野では、2013年度より新たに一関システムセンターを加え、中期計画を策定、活動をスタートさせております。一関システムセンターは、2013年10月の外部審査機関による拡張審査にて、ISO9001・14001共に認証を取得することが出来ました。

活動の具体的な項目としては「環境配慮型製品の提供」、「地球温暖化ガス排出量の更なる削減」、「品質・環境両面からの負荷低減活動」、「社会貢献活動」等の目標を強化しております。ものづくりの企業として環境に配慮した製品を皆様にお届けする為、また、社員一人ひとりの自主性や環境意識を高める為、より一層の努力を重ねて参ります。

安全衛生分野においては、事業継続計画(BCP)を策定し本年7月より運用を開始しております。2011年に発生した東日本大震災の記憶はいまだ薄れることはありません。被災地の地元企業として、災害の経験を教訓とし、危機管理に努めて参ります。

本報告書は当社の地球環境保全への取り組みと、2013年度の活動実績をまとめたものです。本報告書を通じて、より多くの皆様に当社の取り組みをご覧いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。皆様の変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

基本理念

■ 基本理念

当社は、創業以来「創造と奉仕の精神」を企業理念に掲げ、日々の研鑽に努めることによって社会に貢献することをお約束しています。これに基づき経営品質方針及び環境方針を定め、具体的活動に結びつけています。尚、2012年7月に新たな中期経営方針を定め、より明確な目標を掲げています。

企業理念

凌和電子株式会社は
「創造と奉仕の精神」をモットーに
日々、技術の研鑽に努め
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで
社会に奉仕します。

2009年1月1日
凌和電子株式会社
社長 安藤仁司

経営品質方針

基本理念

凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足の追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動(経営)を推進していきます。

行動指針

- 凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。
- ・規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
 - ・新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
 - ・改善の眼と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
 - ・当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
 - ・顧客要求事項、法令などに適合する製品提供のため品質マネジメントシステムを継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。

環境方針

基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和がとれた企業活動を継続・推進していきます。

行動指針

- 凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。
1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
 2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
 3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
 4. 本方針に基づく環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
 5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。

中期経営方針

スローガン

Mind to the **✓**
～価値にこだわれ！～
(勝ち)

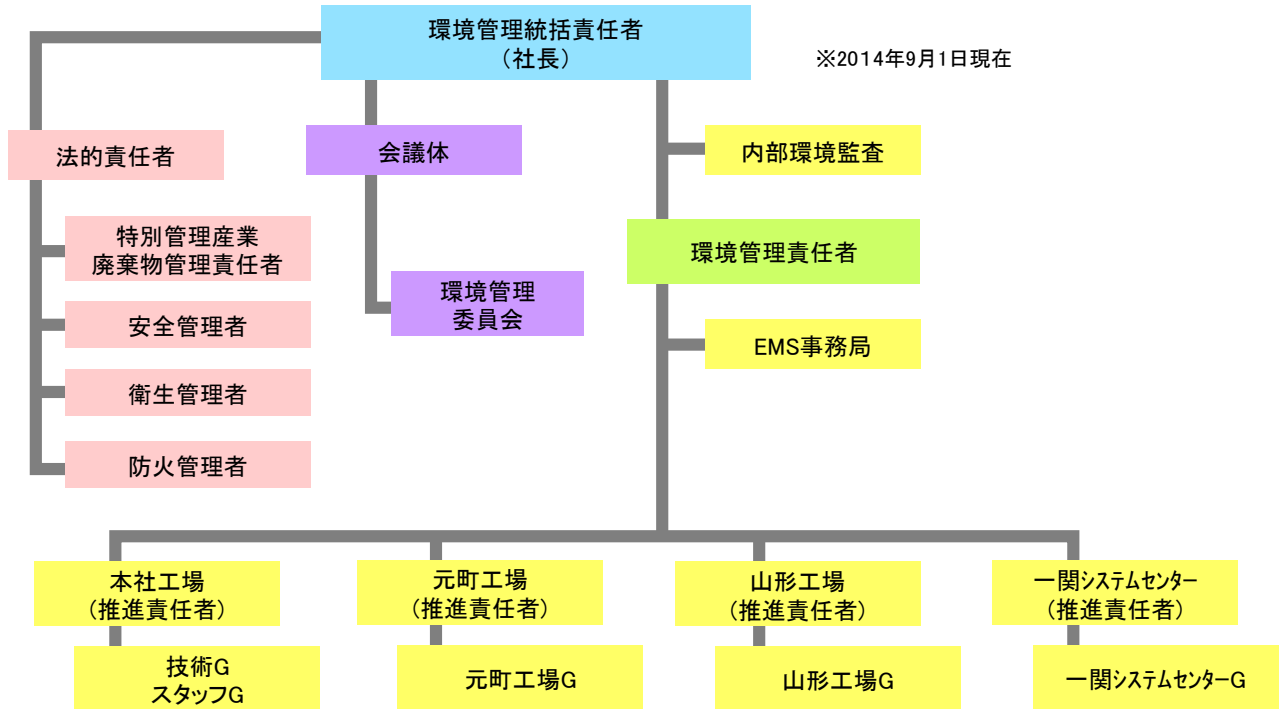
厳しい経営環境が続く中 競争に勝ち抜き企業価値を高め 社業発展の道を歩んで行こう

- ◇3事業(充放電システム、画像処理、通信システム)の事業化確立
- ◇新規分野への営業活動の推進
- ◇海外市場への積極的アプローチ
- ◇3事業(充放電システム、画像処理、通信システム)関連技術の深化
- ◇磁気応用計測技術の展開と研鑽
- ◇環境に配慮した製品開発・設計業務
- ◇確固たる製品品質を担保するプロセス管理の徹底
- ◇付加価値生産性の更なる向上
- ◇能力開発のためのチャレンジ推進
- ◇コンプライアンス遵守に基づく社内諸規則の見直し
- ◇経営指標の予測管理
- ◇業務の効率化とスピードアップ

環境マネジメントシステム

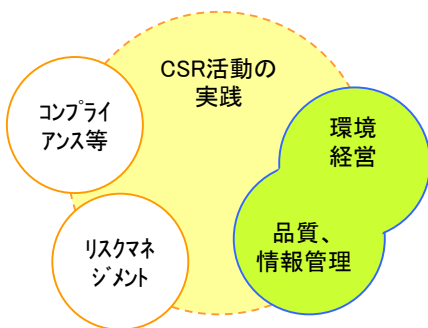
当社の環境管理体制は、2009年1月から社長が環境管理統括責任者となり、活動を牽引しています。2013年7月から一関システムセンターを環境管理体制に編入しています。

■ 環境管理体制



■ 中期計画の基本的な考え

当社では環境経営だけでなく、コンプライアンス、品質、情報管理、リスクマネジメント等を包含した [CSR活動] への発展へ向け取り組んでいます。



■ ISO14001 認証継続

2013年10月に維持審査を受け、認証継続となりました。また、一関システムセンター(※一関SC)は同年に拡張審査で認証を受けています。

適用範囲:

本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC

認証登録機関:

Bureau Veritas Japan.co.,Ltd.

認証登録番号:

2650344



2013年度環境目標及び活動実績

当社は、2013年度を迎えるに当たり、中期計画の見直しを行いました。新たな環境目標及びこれに基づいた環境マネジメントプログラムを策定し活動を行っています。見直した計画の特長は、中期計画目標「2010年度～2012年度」を達成し定着した項目を維持目標とし、重点目標を絞り込むことでメリハリをつけたことです。

その中でも、環境配慮型製品の提供はものづくりの企業として当然求められるものであり、重要なテーマであると捉えています。又、環境・品質両面からのアプローチによる本来業務の改善にも力を入れ展開していきます。

2013年度活動実績(報告範囲:本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC)

2013年度は全社目標として改善目標3項目、維持目標4項目を掲げました。

結果として各工場とも全項目達成し、全社としても同様となりました。ただし「環境配慮型製品の提供」の項目はアセスメント率を達成した為に○としましたが、環境配慮型製品登録件数は目標値を下回る結果となりました。これは事業状況が一因となっています。

評価基準

◎:中期計画をクリア ○:計画対比100%以上達成 △:95%以上達成 ×:95%未満

実績算出

実績値(%):2013年度計画対比/[]は同原単位比(人員ベース)

No	項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
		中期計画 2016年度	年度計画 2013年度	実績 (計画対比)	評価	
1	環境配慮型製品の提供	全製品環境 配慮型化の推進	新規製品アセスメント 85%以上 環境配慮型製品 登録43件以上	アセスメント100% 登録26件	○	P6
2	地球温暖化ガスの排出削減	2012年度実績より 4%以上削減	2012年度実績見込 より1%以上削減	△17.2% [△13.4%]	◎	P7
3	廃棄物の排出削減 (一般廃棄物)	2013年度目標 維持継続	1.2kg/人・月以下	△25.5% [△7.8%]	◎	P8
	廃棄物の排出削減 (産業廃棄物)	ゼロエミッション維持 継続	再資源化率95%	全工場:100%	◎	P8
4	オフィス用品のグリーン調達(調達率)	100%継続	100%継続	100%	◎	—
5	紙資源の削減(購入量)	2013年度目標 維持継続	1.1kg/人・月以下	△16.5% [+13.6%]	◎	P8
	節水活動の推進(水使用量)	2013年度目標 維持継続	0.6m ³ /人・月以下	△19.4% [+6.1%]	◎	P8
6	環境リスクの低減	環境コンプライアンスの 拡大強化	緊急事態対応訓練 の実施	各工場訓練実施	◎	P11
7	環境コミュニケーション	環境安全 報告書発行	環境安全報告書発行 環境ニュース発行	環境安全報告書発行 環境ニュース 12回発行	◎	P12
		エコ生活推進	情報提供 (原則隔月)	エコ生活情報 6回発行	◎	P12
		地域・行政への 協力	地域・行政への 協力3件以上	・チャレンジ25参加 登録 ・ケルビス運動参加 ・仙台市まち美化サ ポーター登録・実施 ・環境配慮型事業所 認定・更新	◎	P12
		工場独自活動の強化 (4件以上/工場)	工場独自活動の強化 (3件以上/工場)	全工場 実施	○	P13~

※No.1、2、7は改善目標 No.3、4、5、6は維持目標

維持目標の管理は管理値を基準として5%増までは管理内とする

※工場独自の活動は13頁以降にご紹介しています

環境配慮型製品の提供

当社の環境目標の中で、特に力を入れ取り組んでいるテーマです。環境への配慮は多くのお客様からのニーズがあり、社会的にも有害物質の排除や省エネルギー化など、ものづくりには必要不可欠な要素となっています。

2013年度は新規に環境配慮型製品として登録した件数は前年度に比べて減少しましたが、これは事業状況によるものです。当社では新規製品のアセスメント評価は全て行い、全製品の環境配慮型化を目指しています。

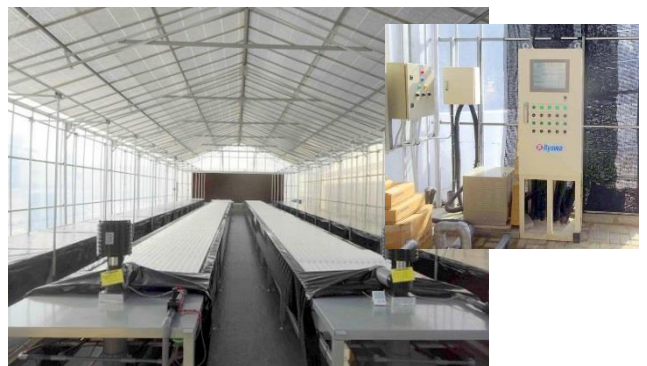
■ 環境配慮型製品事例

水耕栽培

RoHS指令対応
回収と運搬の容易化(吊り上げボルト有り)



被災地での水耕栽培



海外での水耕栽培

生産性向上システム

RoHS指令対応 省電力化
分解の容易化



・マイルストーン
・足首センサー
・充電器



・マイルストーン位置取得センサー
・4方向マイルストーン



環境配慮型製品の評価項目

当社では、製品の設計段階でアセスメントを行い、環境に配慮した製品を創出するよう努めています。アセスメントにて基準を満たした製品は、環境管理責任者の承認のもと、環境配慮型製品として登録されます。

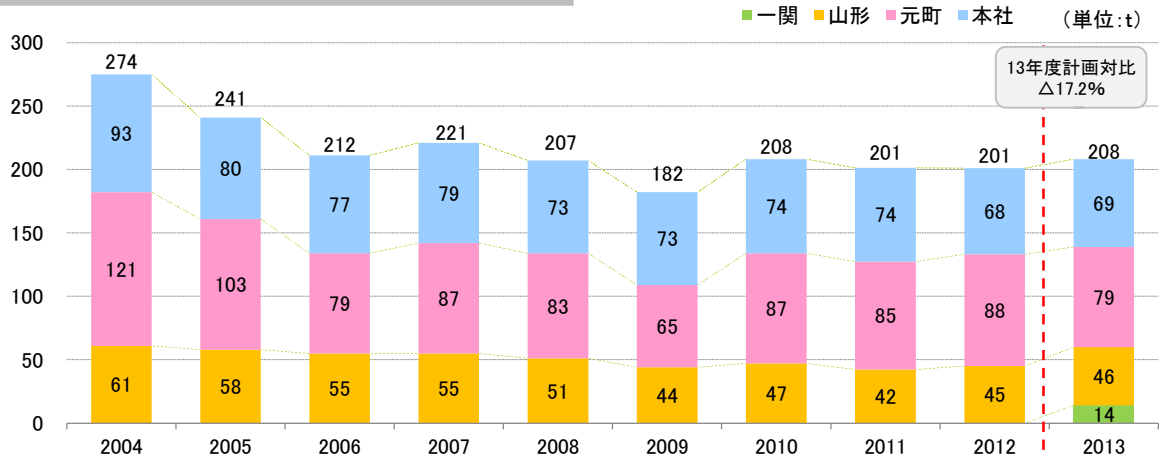
評価項目

1. 製品の減量化
2. 再生資源化
3. 破砕、減量処理の容易化
4. 分解、分離の処理の容易性
5. 分別処理の容易化
6. 回収と運搬の容易化
7. 有害物質の排除
8. 包装・梱包
9. 情報の提供
10. 製品の長期使用化
11. 低消費電力化

地球温暖化ガスの排出削減

当社は、事業活動によって生じるあらゆる環境負荷の低減に努めています。特に地球温暖化ガスは温暖化の主因とされており、排出削減を改善目標とし、尚一層の削減を図るべく取り組んでいます。2013年度からは新たに一関システムセンターを管理サイトに加え、管理指標も新たに設定しました。また、排出量の算出方法も見直しを行っています。2013年度の二酸化炭素の排出量は208tであり、計画対比で17.2%の削減が図られました。

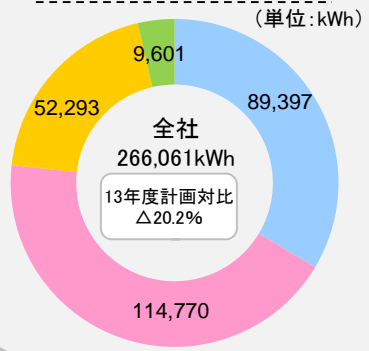
地球温暖化ガスの排出削減 推移



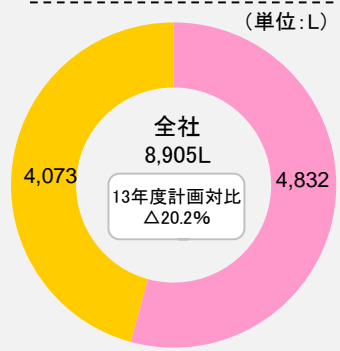
個別のエネルギー使用の内訳

エネルギー源ごとでは計画対比で電気使用量20.2%減、灯油使用量20.2%減、ガソリン使用量6.6%減となりました。節電・エコドライブへの取り組みは社員に定着していますが、インフラの整備等により更なる削減を達成することが出来ました。今後も環境に配慮した製品への切り替えを推進していきます。

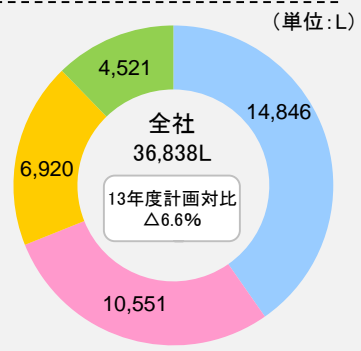
電気使用量の削減



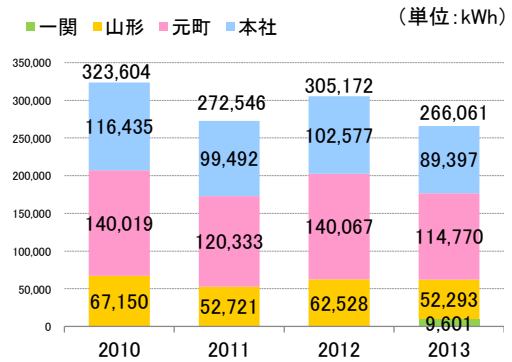
灯油使用量の削減



ガソリン使用量の削減



電気使用量の推移



TOPIC

●グリーン購入

2013年度はウィンドウズXPの終了に伴うパソコンの入替えや、エアコンの買い替えを行いました。新しく導入した製品は、いずれも環境に配慮したものを選び、地球温暖化ガスの削減に一役買っています。また、ハイブリッド車の導入も併せて推進しています。

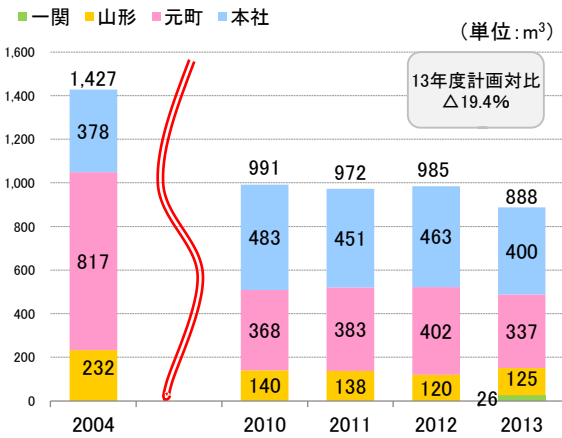




省資源活動

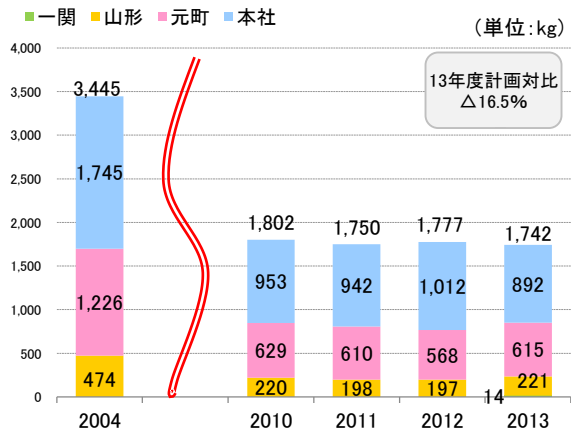
節水活動の推進

2013年度の水道使用量は888m³で、計画対比19.4%減となりました。当社での水の用途はほとんど生活系であるため、漏水チェック等を行い、削減に努めています。



紙資源の削減

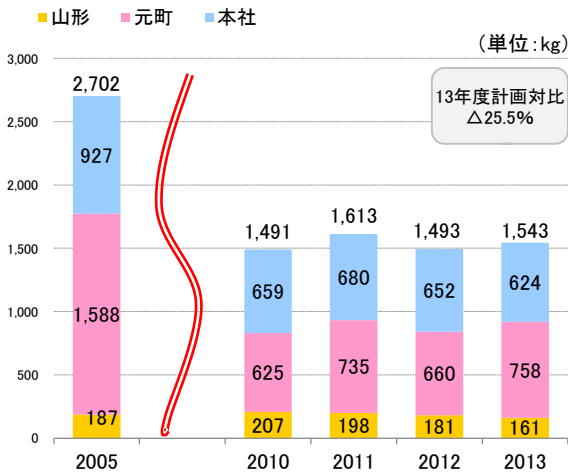
2013年度のコピー用紙等の紙使用量は1,742kgであり、計画対比16.5%の削減となりました。電子化や裏紙の使用は定着しており、ほぼ横ばいの推移となりました。



廃棄物の排出削減

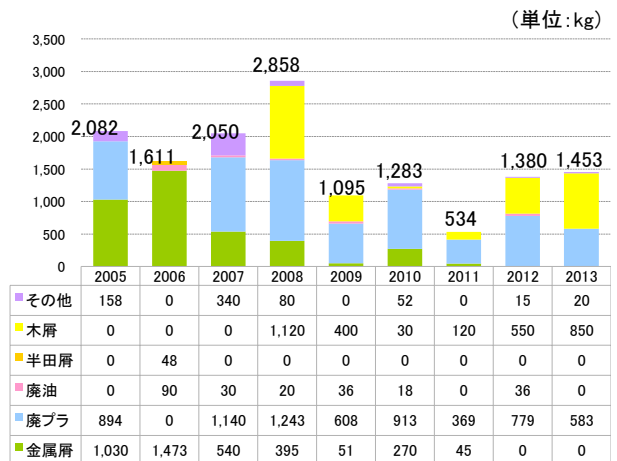
一般廃棄物

2013年度の一般廃棄物排出量は1,543kgとなり、計画対比25.5%減となりました。排出量の波は生産活動の状況が反映されますが、ほぼ横ばいとなりました。



産業廃棄物

2013年度の産業廃棄物の排出量は1,453kgでした。金属屑関係の全リサイクル化は継続しており、会社全体としてゼロエミッションに取り組んでいます。



※2013年度実績は2013年4月～2014年3月排出量をマニフェスト管理状況として自治体に届けたもの

当社は、年度環境教育訓練計画のもと種々の内容の教育を行っています。

■ 環境教育の実施

教育名	実施部門	実施日	受講者数
経営層・幹部教育	品質管理課(ISO推進)	全社 7月22日	5名
管理職・一般社員教育	品質管理課(ISO推進)	本社工場 7月22日 元町工場 7月30日 山形工場 8月 1日 一関SC 7月30日	110名
専門分野別教育			
廃棄物保管管理者教育	品質管理課(ISO推進)	6月13日	1名
内部環境監査員フォローアップ教育	品質管理課(ISO推進)	全社 8月9日	5名

・上表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「全社」としました

2013年
7月

階層別一般教育

階層別教育は、前年度の環境活動の結果と共に今年度の活動内容を全社員に理解してもらうこと、及び顧客の要求事項等の周知を目的として毎年7月に定期的に行っています。2013年度は異常気象についてもとりあげ、温暖化との関連性等教育を実施しました。

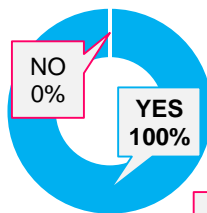


本社

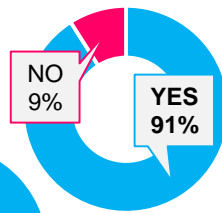
環境意識調査

2014年7月に社員への意識調査を行いました。昨年よりもエコ意識は向上していることが分かりました。

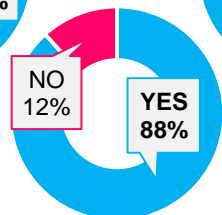
1、環境活動は必要なことだと思う



2、当社はエコに配慮している企業だと思う



3、家庭でもエコ活動をしている



2013年
8月

内部環境監査員 フォローアップ教育

内部環境監査の質の向上及び監査レベルのアップを目的としてフォローアップ教育を行いました。



2014年
6月

専門教育 廃棄物保管管理者教育

新たに任命された廃棄物保管管理者を対象とした教育を行いました。



当社は、3つの柱からなる監査体系をもって環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。

■ 監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001維持審査	外部審査機関による ISO14001維持審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査(全職場)	年1回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 安全衛生を含めての総合監査	年1回

2013年
10月

ISO14001維持審査+拡張審査

2013年10月に受審した維持審査では不適合はありませんでした。また、一関システムセンターの拡張審査も行い、当社の管理サイトとして認証されました。



トップインタビュー風景



拡張審査(一関)



現場審査(一関)

2013年
8月

内部環境監査

2013年8月に実施した内部環境監査では不適合なし、アドバイス12件の指摘がありました。アドバイスは9月中に是正、改善を終えました。



元町

2013年
10月

環境管理責任者 巡回パトロール

2013年10月に行った環境管理責任者主催のパトロールでは全ての拠点を取り回り、10件の指摘がありました。当月中に改善をしています。



山形

環境リスクマネジメント

■ 緊急対応訓練

当社では、敷地外に環境汚染を及ぼす可能性がある要因として灯油の漏出事故を掲げています。今年度も給油の際の漏出事故を想定して緊急対応訓練を行いました。



元町



山形

■ 廃棄物収集運搬・処理業者現地確認

当社では、委託している産業廃棄物収集運搬業者及び処理業者、またリサイクル業者を計画的に訪問し、保管状況、処理状況、法対応状況等の適切性を確認しています。



廃棄物処分場A



リサイクル業者B

■ 法遵守及び苦情への対応

当社は、創立以来環境関連法の違反はありません。又、行政からの指導並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

■ 当社に適用される環境法規制等

当社は、各工場において適用される環境法規制等についてリストを作成し、定期的に法規制遵守状況を確認しています。

環境法規制等一覧			
大気汚染防止法 水質汚濁防止法 浄化槽法 省エネ法 廃棄物処理法	家電リサイクル法 建設リサイクル法 労働安全衛生法 (鉛則、有機則) 消防法 毒物及び劇物取締法	フロン回収破壊法 自動車リサイクル法 宮城県公害防止条例 山形県環境保全条例 岩手県環境保全条例	仙台市公害防止条例 山形市環境条例 一関市環境条例 仙台市火災予防条例 山形市火災予防条例 一関市火災予防条例

(努力義務は除く)

環境コミュニケーション

当社は、継続してステークホルダーの方々に環境に関わる情報を発信しています。今年度も引き続き社外に向けては凌和電子ホームページ及び環境・安全報告書での情報発信、又社内向けには環境ニュース(毎月発行)、環境ニュース特集号(エコ生活情報)を発行しました。

■ 当社のステークホルダー

行政・業界団体

- ・環境報告書
- ・ホームページ
- ・活動への参加・協力



顧客

- ・環境報告書
- ・ホームページ

取引先

- ・環境報告書
- ・お取引様へのお願い

株主

- ・環境報告書
- ・株主総会

社員

- ・環境ニュース
- ・社内Web
- ・環境掲示板

地域住民

- ・環境報告書
- ・ホームページ
- ・地域美化活動

■ 情報発信

環境・安全報告書

当社の環境活動を広く知ってもらうことを目的として環境・安全報告書を発行しています。今回は第9回目となります。

環境ニュース(エコ生活情報)

環境ニュースは、社員への情報提供として最も効果的な方法であるので、月1回の発行を継続しています。

社内イントラネット、掲示板

社内イントラネットに環境のコーナーを設け、環境 規定類、帳票類、環境活動実績、環境情報、顧客の要求事項、環境に関わる議事録等を開示しています。

ホームページ

当社のホームページに環境報告書や環境コミュニケーション情報を開示しています。

■ 地域、行政活動への参加、協力

Fun.to.Shareへの参加

当社は地球温暖化防止のための国民運動であるチャレンジ25キャンペーンに賛同・登録を行っていましたが、キャンペーンのリニューアルに伴い移行・登録を行いました。

エコにこオフィス

当社は環境配慮型事業所の認定更新を受け、継続してグリーン購入やごみの減量等を行っています。

スーパークールビズ活動への参加

当社は2006年より継続してクールビズに協力しています。社員がバッジをつけたり、ポスターを掲示する等、エアコンの使用を控えることにより地球温暖化防止や節電に協力しました。

エコドライバープロジェクトへの参加

当社はドライバーのマナーアップとエコドライブを推進するプロジェクトに賛同しています。



凌和電子ホームページ



環境ニュース



当社での賛同・登録キャンペーン

地域貢献・工場独自の活動

当社は、活動の更なる活性化と工場の取り組みに一層の自主性を持たせることを目的として工場独自目標を増やし、活動しています。各工場で特色のある活動を展開しています。

本社・本社工場

本社・本社工場では、仙台市と連携した活動に協力しています。「仙台まち美化プロジェクト」では工場周辺の美化を、「エコにこオフィス」では、グリーン調達等の環境に配慮した事業所と

しての認定を受けています。また、夏場の本社玄関にはクールビズ宣言書を掲げ、来社されるお客様にご理解・ご協力を頂いています。今後も様々な活動に協力していきます。

仙台まち美化サポート活動

当社では仙台まち美化サポートプログラムに登録し、美化活動を行っています。



清掃活動の様子



エコキャップ運動※の推進

2010年度からエコキャップ運動を継続して行っています。2013年度は3,440個をエコキャップ推進協会へ提供しました。累計で1万個以上となり、ワクチンは13.5人分となりました。



エコキャップの回収

※エコキャップ運動とは、ペットボトルのキャップを回収し再資源化した収益で世界の子供にワクチンを寄付する活動です。

元町工場

元町工場は仙台の工業団地に属しています。清掃活動や献血活動などの団地組合内での活動には積極的に参加しています。献血活動は当社の働きかけによりスタートした活動です。

また、2013年度は工場内の緑化も進み、社員1人1人の自主的な改善活動が目立つようになりました。元町工場全体で楽しみながら良い活動を広げていきます。

献血活動への参加

献血活動は当社だけの活動ではなく、団地組合での活動として定着してきました。これをきっかけに活動への理解が深まることが期待されます。



献血の様子(機械技術課・木暮尚行)

工場内緑化の推進

元町工場では季節毎の綺麗な花を見ることが出来ます。今年はプランターでプチトマトを育て、工場内で収穫を楽しみました。



季節の花々



工場内の資材を利用して支柱を作りました。

山形工場

山形工場は製造部門のある工場として、製作時の効率アップやロスを減らすことを目標とした活動をしています。品質・環境両面からの業務改善を目指しています。また、社会貢献活動

では、定着化した地域清掃活動やエコキャップ運動、また学生を受け入れるインターンシップ等で社会との共生を図っています。今後も地域から愛される企業を目指していきます。

地域清掃活動

山形工場の周辺には大きな道路が通っています。道路沿いの清掃を行うと拾う量も多くなります。



清掃活動の様子

インターンシップの受入

2013年度はインターンシップの受入を目標に取り入れ、年2回高校生や短大生の職場体験を実施しています。



社員による指導の様子

一関システムセンター

一関システムセンターは2013年度に凌和電子のサイトとして登録されました。小規模で

駐在人員が少ない事業所ですが、他サイトと同様に環境活動を開始しています。

周辺美化活動

周りの道路は交通量が多い訳ではありませんが、近くに大きな病院があり、地域貢献のために清掃活動を行っています。



清掃活動の様子

エコキャップ運動の推進

他工場に倣い、一関でもエコキャップ運動を開始しました。小さなことから取り組みを進めていきます。



エコキャップの回収



VOICE

●工場緑化でトマトを栽培

元町工場では社員の一人が持ってきた苗をきっかけに、夏場にプチトマトを育てました。プランターや土、水やり等交代で世話をを行い、実が成った時は喜びもひとしお。来訪者にも振る舞い、喜んでもらいました。



機器製造課

● 星光 則 ●



画像処理技術課

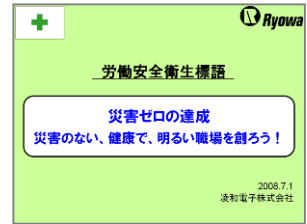
● 菊池 伸 ●

●一関システムセンターのサイト登録

一関SCでは2013年度に無事拡張審査にて認証登録を受けました。元々他工場環境活動自体は行っていたので、抵抗なく取り入れることが出来ました。今後も足並みを揃えて取り組んでいきます。

安全衛生管理

当社は、[災害ゼロの達成(災害のない、健康で、明るい職場を創ろう)]をモットーに安全衛生活動計画を策定し、管理活動に取り組んでいます。2013年度は凌和電子事業継続計画(BCP)を策定しました。東日本大震災を教訓とし、より一層の危機管理に努めてまいります。



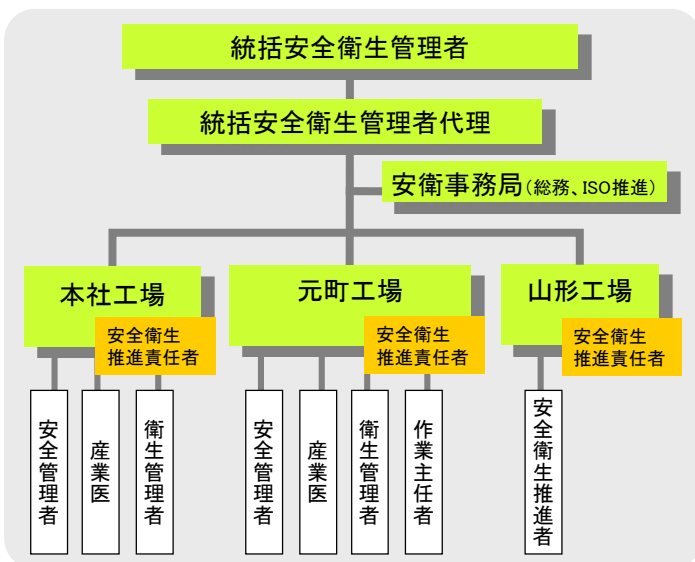
■ 安全衛生活動計画と実績

2013年度の活動計画に基づき活動の展開を図りました。全て計画通り実施しています。

重点実施項目	主な実施内容	実績評価
安全衛生管理体制の確立	組織体制見直し(管理組織・委員会組織)	○
	安全衛生計画の作成	○
	安全衛生委員会の開催	○
安全衛生意識の啓発・教育	安全衛生教育	○
	消防訓練の実施	○
健康維持・増進活動	健康診断の実施、受診の徹底	○
職場の作業環境整備	危険性・有害性の調査	○
	安全パトロールの実施	○

■ 安全衛生管理体制

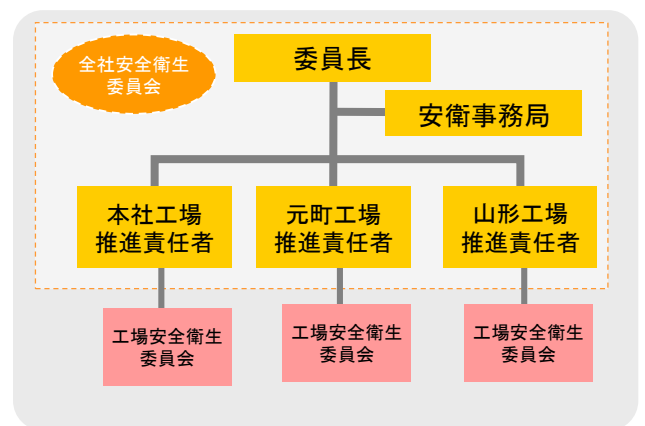
社長を安全衛生管理統括責任者とし、工場毎に推進責任者及び法定管理者を定めています。



■ 安全衛生委員会組織

全社及び各工場の安全衛生委員会組織に基づき、全社は年1回、工場は毎月安全衛生委員会を開催しています。

工場の委員会では社員からの様々な意見を吸い上げ、改善を図ることでより良い職場環境を目指しています。



※一関システムセンターは小規模事業所の為対象外としています。

■ 安全教育

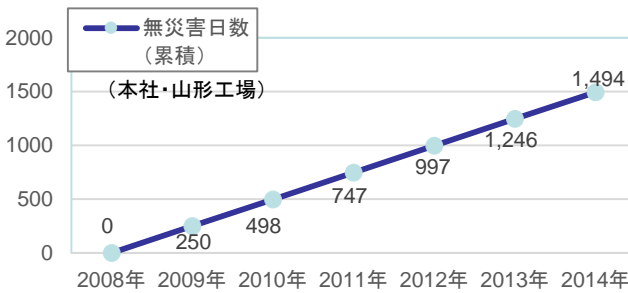
当社は、毎年1回全社員を対象に安全衛生教育を実施しています。



元町

■ 無災害記録の継続

当社は、中小企業無災害記録証授与制度を利用し、無災害記録の継続を目指しています。2013年度は山形工場で努力賞を受賞しました。



※記録は6月末(期末)時点の累積日数です。
※元町工場では休業災害が発生したため、累積92日となっています。

■ 健康診断

当社は、毎年定期健康診断、生活習慣予防診断、特殊健康診断(鉛、VDT)を実施しています。

2013年度の定期健康診断において未受診者はありませんでした。今後も100%継続を目指します。

工場	定期健康診断受診率	備考
本社	100%	受診者52名／対象者52名
元町	100%	受診者42名／対象者42名
山形	100%	受診者25名／対象者25名
一関	100%	受診者5名／対象者5名

■ 表彰

当社は、優良品所として宮城労働基準協会より「公益社団法人宮城労働基準協会長賞」を受賞しました。



表彰式の様子

■ 防火訓練・避難訓練

工場ごとに火災や地震を想定した訓練を実施しています。水消火器を使った消火訓練や、緊急時連絡網を使った安否確認の運用テストも併せて実施しました。

本社



消火訓練



避難訓練

元町

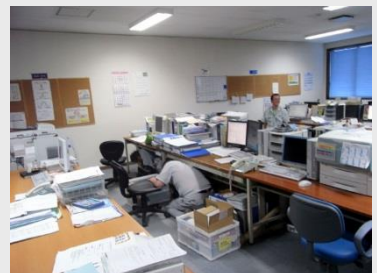


消火訓練



点呼・報告

山形



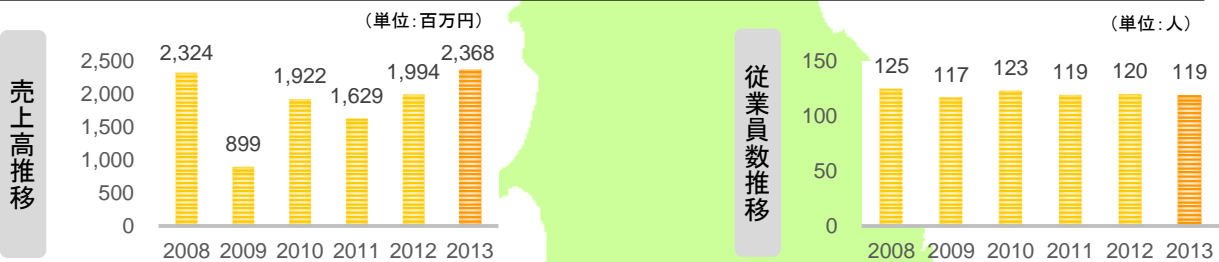
避難訓練



救出訓練

会社概要

創立	昭和47年 7月28日
資本金	7000万円
役員 (2014年9月1日現在)	代表取締役社長 安藤 仁司 取締役会長 安藤 正如 専務取締役 中島 正美 取締役営業本部長 川田 智 監査役 浅野 秀一
事業内容	省力化用機器、制御装置設計製作、工業用電子計測機器類設計製作、各種PCボードパターン設計製作及び実装、マイクロコンピュータ応用制御システム及び計測システム設計製作、自動機システム設計製作、磁性材料計測システム、画像処理技術、各種情報処理
規模	(本社)敷地:1274.03㎡(約386.1坪) 建屋:1098.24㎡(約332.8坪) (元町)敷地:1717.40㎡(約520.4坪) 建屋:1055.22㎡(約319.8坪) (山形)敷地:1866.94㎡(約565.7坪) 建屋:741.50㎡(約224.7坪) (一関)敷地:827.78㎡(約250.4坪) 建屋:104.24㎡(約31.5坪)
沿革	1972(S47) 凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁) 1989(H1) 仙台市鶴代町に東部工場開設 1999(H11) 山形市高原町に山形工場を建設 2000(H12) 仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設 2001(H13) ISO9001:1994認証取得 2006(H18) ISO14001:2004認証取得 2006(H18) 東部工場を元町工場に併合 2008(H20) ISO9001維持審査、ISO14001更新審査受審(認証継続) 2009(H21) ISO9001更新審査(2008)、ISO14001維持審査受審(認証継続) 2011(H23) ISO9001維持審査(2008)、ISO14001更新審査受審(認証継続) 2012(H24) 一関市狐禅寺に一関システムセンター開設 2013(H25) 一関システムセンターISO9001、14001拡張審査受審(認証取得)



本社・本社工場

仙台市若林区南材木町



一関システムセンター

岩手県一関市狐禅寺



山形工場

山形県山形市高原町

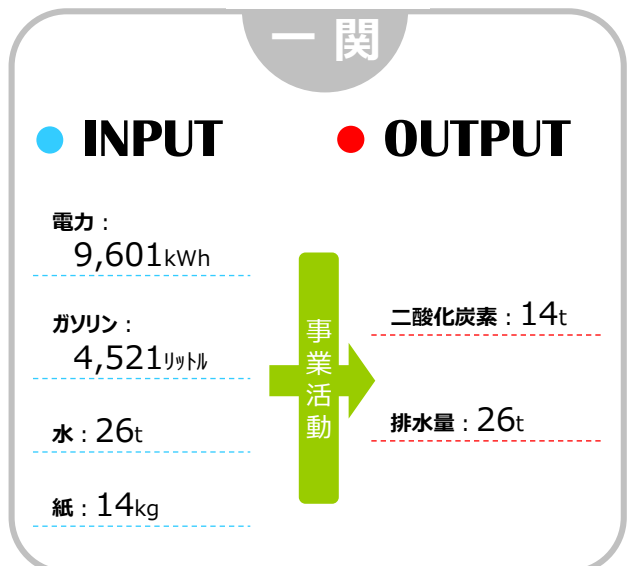
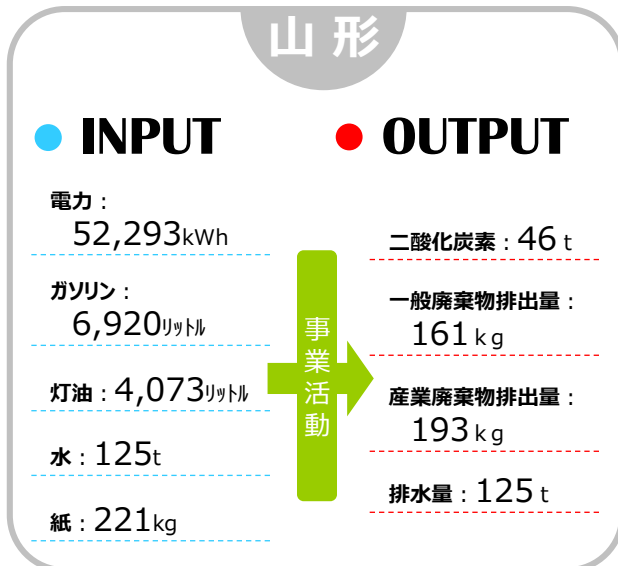
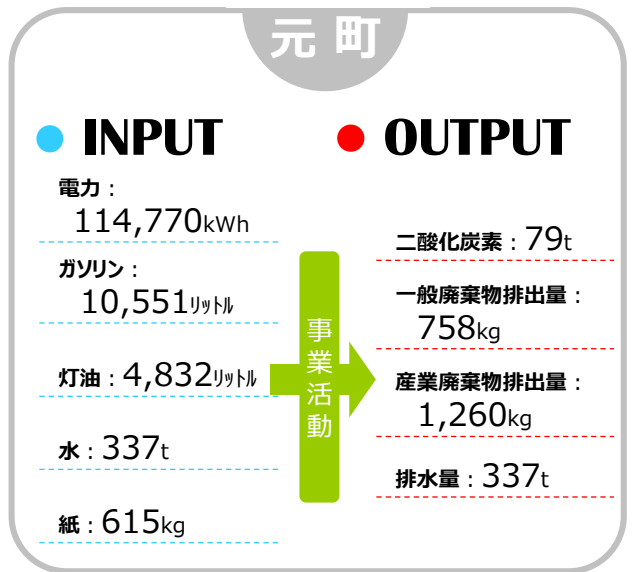
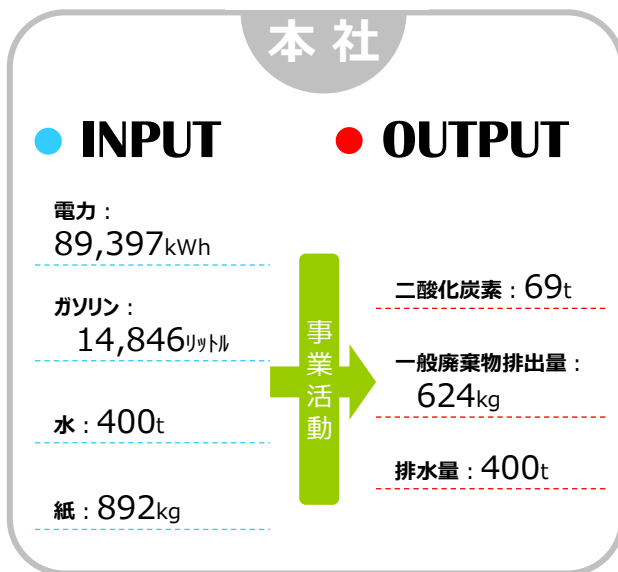
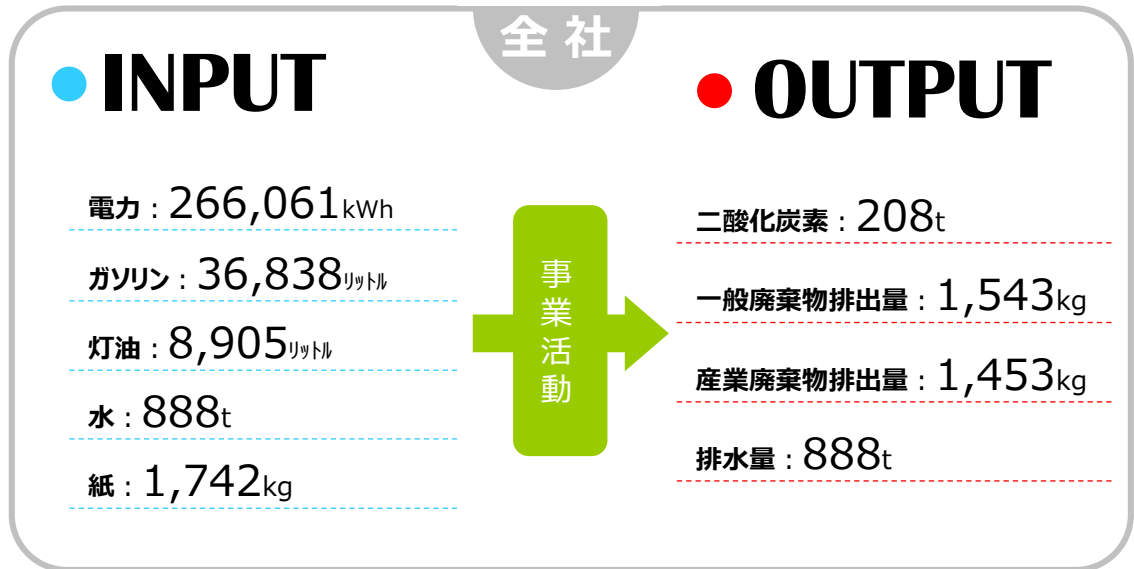


元町工場

仙台市若林区六丁の目



環境負荷マスマランス





凌和電子株式会社

〒984-0805

宮城県仙台市若林区南材木町48番地

URL : <http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

お問い合わせ：品質管理課ISO推進(飯田・永峯)

TEL:022-266-4188 FAX:022-268-7493

発行：2014年9月 次回発行予定：2015年9月